



# 2025年12月期 決算説明会

株式会社 堀場製作所

代表取締役会長兼グループCEO 堀場 厚

代表取締役社長 足立 正之

2026年2月13日

# 説明内容

---

- 2025年12月期 決算概要
- 2026年12月期 業績予想
- MLMAP2028進捗状況
- 事業成長に向けた対応
- トピックス
- 株主還元

## < 免責事項 >

本プレゼンテーション資料には、株式会社堀場製作所の業績、戦略、事業計画などに関する将来的予測を示す記述および資料が記載されております。これらの将来的予測に関する記述および資料は過去の事実ではなく、発表時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予測です。また経済動向、他社との競争状況、為替レートなどの潜在的リスクや不確実な要因も含まれています。その為、実際の業績、事業展開または財務状況は今後の経済動向、業界における競争、市場の需要、為替レート、その他の経済・社会・政治情勢などの様々な要因により、記述されている将来予測とは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。

# 説明内容

---

- 2025年12月期 決算概要
- 2026年12月期 業績予想
- MLMAP2028進捗状況
- 事業成長に向けた対応
- トピックス
- 株主還元

# 2025年12月期 連結実績

(単位：億円)

	2024年	2025年		増減	
	実績	前回予想 (11/14)	実績	対前年	対前回予想
売上高	3,173	3,350 ★	3,330	+157	▲19
営業利益	483	520 ★	530	+47	+10
営業利益率	15.2%	15.5%	15.9%	+0.7p	+0.4p
経常利益	501	520 ★	542	+40	+22
親会社株主に帰属する 当期純利益	335	360	370	+34	+10
USドル (円)	151.69	145.00	149.61	▲2.08	+4.61
ユーロ (円)	164.05	165.00	169.19	+5.14	+4.19

★ : 過去最高

# 2025年12月期 連結実績 (フィールド別)

(単位：億円)

	売上高					営業利益				
	2024年	2025年		増減		2024年	2025年		増減	
	実績	前回予想 (11/14)	実績	対前年	対前回 予想	実績	前回予想 (11/14)	実績	対前年	対前回 予想
エネルギー 環境	1,274	1,370	1,344	+69	▲25	42	80	94	+51	+14
バイオ ヘルスケア	401	440	421	+20	▲18	▲8	▲10	▲8	▲0	+1
先端材料 半導体	1,497	1,540	1,565	+67	+25	449	450	445	▲4	▲4
合計	3,173	3,350	3,330	+157	▲19	483	520	530	+47	+10





※今年度より開示セグメントを変更しているため、フィールド別の過去最高判定は記載しておりません。

# 説明内容

---

- 2025年12月期 決算概要
- 2026年12月期 業績予想
- MLMAP2028進捗状況
- 事業成長に向けた対応
- トピックス
- 株主還元

# HORIBAから見た市場環境の想定

全般		<ul style="list-style-type: none"><li>・ 国際情勢の複雑化に伴う、地政学的リスクの高まりによる、サプライチェーンへの影響には注視が必要</li><li>・ 世界的なエネルギーコスト上昇や労働力不足により自動化・省力化投資が加速</li></ul>
エネルギー環境		<ul style="list-style-type: none"><li>・ 各国ではEVシフトが減速し、次世代燃料などの内燃機関を含むハイブリッド車の開発が再加速</li><li>・ 車載向け燃料電池の投資減速の一方、水素活用に向けた期待は根強い</li><li>・ 電子デバイス産業等における水質・ガス計測などの環境設備投資の拡大</li></ul>
バイオヘルスケア		<ul style="list-style-type: none"><li>・ かかりつけ医を強化する日本市場や現地生産を強化するインド市場などの検体検査機器及び試薬市場成長は底堅い</li><li>・ 欧・米・中での検体検査市場における競争の激化</li><li>・ バイオ医薬品の需要および製造プロセスの改善に向けた開発が加速</li></ul>
先端材料半導体		<ul style="list-style-type: none"><li>・ AI投資の加速などによる、先端ロジックやDRAMをはじめとしたメモリの投資拡大による半導体製造装置の需要増</li><li>・ 最先端材料の研究開発や、半導体製造プロセスにおける分析ニーズの高度化</li></ul>

# 2026年12月期 通期業績予想

(単位：億円)

	2024年	2025年	2026年	
	実績	実績	予想	対前年
売上高	3,173	3,330	★ 3,450	+119
営業利益	483	530	★ 560	+29
営業利益率	15.2%	15.9%	16.2%	+0.3p
経常利益	501	542	★ 565	+22
親会社株主に帰属する 当期純利益	335	370	★ 405	+34
USドル (円)	151.69	149.61	145	▲4.61
ユーロ (円)	164.05	169.19	175	+5.81

★ : 過去最高

# 2026年12月期 通期業績予想（フィールド別）

（単位：億円）

	売上高			営業利益		
	2025年 実績	2026年 予想	対前年	2025年 実績	2026年 予想	対前年
エネルギー 環境	1,344	1,340	▲4	94	100	+5
バイオ ヘルスケア	421	430	+8	▲8	-	+8
先端材料 半導体	1,565	1,680	+114	445	460	+14
合計	3,330	3,450	+119	530	560	+29

※今年度より開示セグメントを変更しているため、フィールド別の過去最高判定は記載しておりません。

# 説明内容

---

- 2025年12月期 決算概要
- 2026年12月期 業績予想
- **MLMAP2028進捗状況**
- 事業成長に向けた対応
- トピックス
- 株主還元

# MLMAP2028「MAXIMIZE VALUE」の進捗状況

(単位：億円)

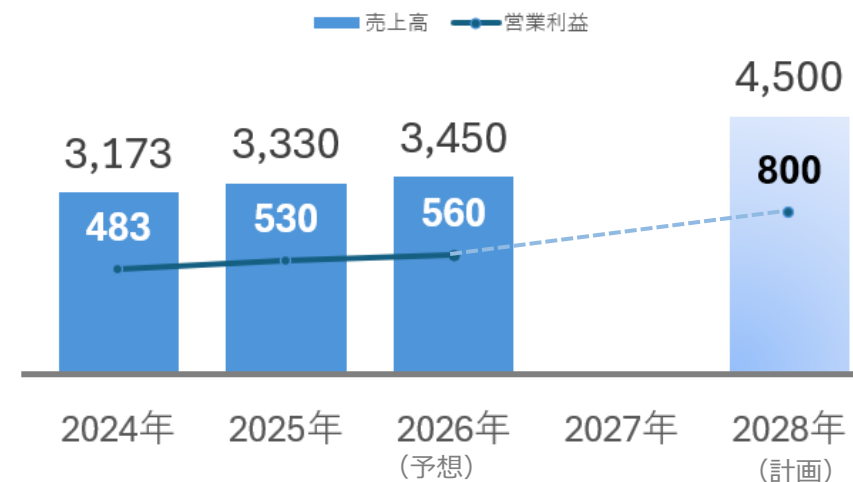
## 〈成果〉

- フィールドオペレーションの加速によりビジネス機会が増え、新製品や顧客とのアプリケーション開発が加速

## 〈市場変化と課題〉

- AIに牽引された半導体ビジネスの拡大や、内燃機関投資の回帰等に伴う事業成長の一方で、市況の変化に合わせ、一部事業は戦略見直しの必要あり

## MLMAP2028進捗



2026年  
2月

2026年  
8月

MLMAP2028見直しを実施中  
(2026年8月公表予定)

# 〈成果〉 フィールド制によるビジネス拡大の進捗

## エネルギー・環境



Hydrogen



Water



Energy Materials



Combustion Process

## バイオ・ヘルスケア



Diagnostics



Life Science for Pharma



## 先端材料・半導体



Semicon Process



New Material



Metrology

セグメントの壁を越えた技術・アプリの共有

## HORIBAのコア技術群



赤外線計測



流体計測



粒子計測



分光分析



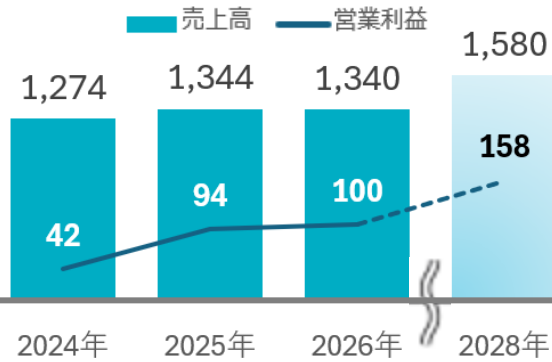
液体計測



システムインテグレーション/オートメーション/クラウドネットワーキング/データサイエンス (AI)

# 〈市場変化と課題〉 MLMAP2028の進捗状況 (フィールド別) (単位: 億円)

## エネルギー・環境

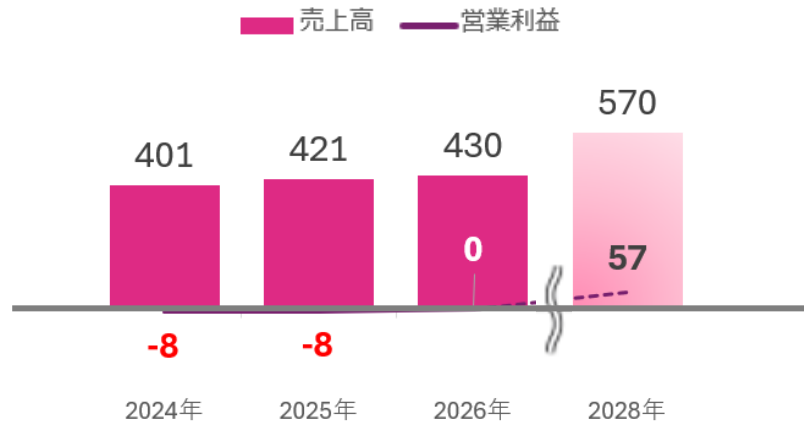


- 【成果】 内燃機関投資の回復に合わせて着実な成長を実現
- 【課題】 水素関連事業は、オペレーション課題及び市況悪化による収益減少



燃料電池薄膜  
モニタリング

## バイオ・ヘルスケア

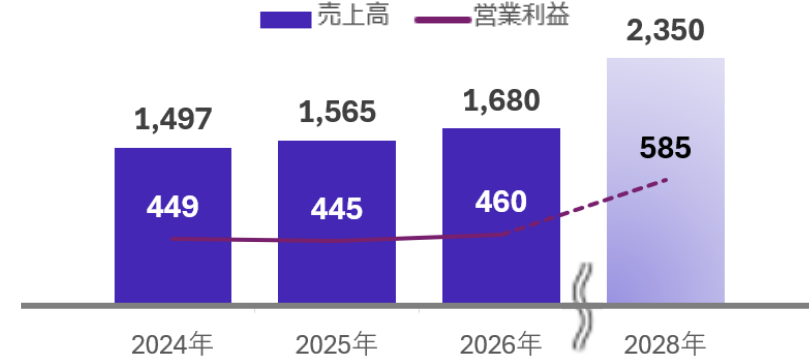


- 【成果】 ライフサイエンス新製品や、アプリケーション開発加速
- 【課題】 メディカル事業は、地域によって収益悪化が続く



新薬開発支援

## 先端材料・半導体



- 【成果】 M&Aによる領域拡大や、ウエハ計測分野での新規アプリケーション開発を加速
- 【課題】 新工場投資：供給力を増強し、今後の需要増に備える



半導体  
ウエハ検査

フィールドオペレーションの成果：コア技術を組み合わせた新ソリューションの誕生

# 説明内容

---

- 2025年12月期 決算概要
- 2026年12月期 業績予想
- MLMAP2028進捗状況
- 事業成長に向けた対応
- トピックス
- 株主還元

# 事業成長に向けた対応

## モビリティ事業

- 内燃機関投資の回復を背景に高水準な受注継続
- メカトロニクスについては構造改革を実施中



### 《構造改革による資本効率向上と収益性改善のための施策》

- メカトロニクス事業の中核拠点
  - ホリバ・ヨーロッパ社（ドイツ）のオペレーション縮小
  - チェコ工場の閉鎖など

燃焼計測にとどまらず、高付加価値な  
試験ソリューションを提供するビジネスへ転換

## 新エネルギー事業（水素）

- プロジェクトマネジメントの改善により収益性は向上
- 受注水準の低下に合わせ構造改革を実行（一時的に事業規模を縮小）

### 《構造改革による資本効率向上と収益性改善のための施策》

- ホリバ・フューエルコン社（ドイツ）のオペレーション縮小
- その他新エネルギー事業拠点の再編  
→ エネルギー事業の収益性改善



カーボンニュートラルに貢献する水素の  
将来の投資回帰に備えた体制整備

# カーボンニュートラルへの貢献

## 「ブルー水素・アンモニア製造・利用一貫実証試験」にHORIBAの分析・計測機器が採用



### 【プロジェクト概要】

天然ガスを活用し、ブルー水素・ブルーアンモニアの製造から利用に至る一連のプロセスを検証する国内初※1のプロジェクト

### 【HORIBAが提供するソリューション】

他社製品を含む複数の分析・計測機器を組み合わせるエンジニアリング力を発揮し、選定、納入、据え付け後の運用支援まで一貫して担う。

※1 INPEX 調べ

## 下水処理市場における消費電力低減や、温室効果ガス削減への研究に貢献



### HORIBAが提案するソリューション

**アンモニア・硝酸態窒素計**  
下水処理場での電力消費量や、  
薬品消費量を適切に調整



排水中のアンモニア態窒素と硝酸態窒素の濃度をリアルタイムで連続測定可能 (国内メーカー初※2)

排水中の窒素成分を幅広く正確に把握できるため、排水処理設備の運転効率化によるコスト削減、環境負荷低減に貢献

※2 2025年9月時点 (当社調べ) 16

# 事業成長に向けた対応

## メディカル事業

- 日本とインド市場における製品差別化と販売力の強化
- 競争激化に伴う収益力低下地域の構造改革に着手
- 中国IVD企業：Medconn社と「中国国内での事業オペレーション最適化に向けた協業」、および「中国国外での事業展開に関する協業」検討開始



Medconn社との協業に向けた覚書の締結

### 《構造改革による資本効率向上と収益性改善のための施策》

- 中国の工場の閉鎖を含む、メディカル事業の構造改革の推進

## ライフサイエンス事業

### 市場環境

- アカデミア向けの研究予算縮小影響（米国）
  - 製薬業界の各社とのコラボレーション進行中
- ### HORIBAビジネス
- 新製品拡販による販売増加
  - 2027年以降の拡大を見据えた製品開発投資を継続

## ラマン分光装置・蛍光分光装置を用いた発表実施（第4回日本抗体学会学術大会）

### 【機会】

- 抗体医薬品の生産のための細胞の培養工程における連続モニタリング

### 【HORIBAのソリューション】

- プロセス分析の技術がバイオ医薬品の生産効率向上に貢献しうることを発表



蛍光分光迅速バイオ分析装置



プロセスラマンシステム

# ライフサイエンス領域への貢献

## 創薬・製薬プロセス向けソリューションを拡大 展示会での新製品プロモーションを加速



JASIS 2025 出展 (日本)



Pittcon 2025出展 (米国)

- 強みである分光分析技術をコアに、データサイエンスやサンプルハンドリングのスキルを応用
- 各プロセスの用途にあわせたカスタマイズ性を追求

バイオ医薬品の開発・製造に向け、グローバル  
ビックファーマとのコラボレーションが加速

## ライフサイエンス領域での 製品ラインアップ拡充

### 医薬品の安定性の把握に貢献

- 粒子径や形状によって、体内での溶け方や吸収のされ方が変わる粉薬や錠剤の評価が可能
- 薬効を持つ分子同士が集まる「凝集」が起こりやすい、注射薬などの高分子医薬の評価が可能



### レーザー回折・動的画像式 粒子径形状解析装置

### 薬剤の有効成分や化粧品製剤の開発に貢献

- 皮膚の厚みや水分含有量などのパラメータの測定が可能
- 柔軟で取り扱いやすいプローブが計測をサポート



### In vivo肌測定用ラマン測定装置

# 事業成長に向けた対応

## 先端材料・半導体事業

### 【市場・事業環境】

- AI投資の加速により、DRAMや先端ロジック向けの需要は引き続き拡大
- NANDは増産にむけた今後の投資を期待
- パワー半導体や太陽電池市場は調整局面からの回復を期待
- 地政学的リスクの高まりによるサプライチェーンへの影響






### 半導体デバイスの微細化・三次元構造化、製造プロセスの複雑化に対応する製品を拡充

- 半導体製造プロセスにおける圧力測定に使用
- 高温プロセスでも優れた応答性能と安定した測定精度を両立



キャパシタンスマンオメーター

## HORIBAが展開する半導体産業へのソリューションラインアップを拡充中

マスフローコントローラー	成膜やエッチングなどの工程で使用される多様なプロセスガスや液体材料の正確な流量制御ソリューションを提供	
薬液濃度モニター	洗浄やエッチングで使用される薬液を連続測定 BEOL※プロセスで使用される薬液濃度管理ソリューションも提供	
ウエハ検査	分光技術を用いて、ウエハやデバイス検査工程を効率化するソリューションを拡充	
先端材料開発	EUV露光用ペリクルの素材、CMPスラリー材などの量産プロセスに貢献する分析・計測技術の開発を支援	
ファシリティ	半導体製造プロセスにおける、各種排ガス・排水の連続監視モニタリングソリューションを提供	

※半導体前工程の配線形成工程を指すback end of lineの略

# コア技術の深耕・技術力強化による半導体産業への貢献

コア技術を活用し、さらなる技術力強化により  
半導体産業の発展に貢献

## 「京都福知山テクノロジーセンター」新棟本格稼働



秤量法測定システム



本施設においてガス質量流量の校正で、  
米国標準技術研究所（NIST）の試験所  
認定プログラムより ISO/IEC 17025※ に  
基づく認定を取得

マスフローコントローラーの  
正確さをさらに向上させる  
秤量法測定システム

- プラズマアプリケーションも研究開発を加速

インドの人エダイヤモンドの幅広い研究を  
手掛けるプリスティン・ディープテック社を買収



2月2日に開催したセレモニーの様子

注目される  
人工ダイヤモンド

- ✓ 次世代パワー半導体  
や量子センサーなど  
広範な分野に貢献
- ✓ 熱伝導性や耐電圧性  
に優れ、先端材料と  
して期待

- 【融合】 プリスティン社の豊富な知見とHORIBAの  
分析・計測技術の融合
- 【インド】 新たなソリューションを創出する研究開発  
体制をインドに構築
- 【EtaMax】 昨年度に買収したEtaMax社の次世代パワー  
半導体とのコラボレーションに期待

# 京都福知山工場 2026年春 本格稼働

## 長期的な安定供給体制の確立をめざす

- 中長期の需要増を見据え生産能力を增強
  - ✓ 福知山工場完成により、国内マスフローコントローラー生産能力を最大3倍へ強化
  - ✓ 半導体市況に合わせ、段階的に生産量を拡大させる予定
- マスフローコントローラー主要拠点工場の役割

生産拠点	生産拠点の特徴
京都福知山	自動化・効率化による安定供給
京都（鉾立）	新製品へ特化・各工場の統括
阿蘇	量産対応へ特化
マレーシア	グローバル生産によるBCP強化



京都福知山



京都（鉾立）



阿蘇



マレーシア

# 説明内容

---

- 2025年12月期 決算概要
- 2026年12月期 業績予想
- MLMAP2028進捗状況
- 事業成長に向けた対応
- **トピックス**
- 株主還元

# HORIBA World Headquarters Project

## グローバルオペレーションの進化 & 国内拠点の再整備のための戦略投資



2013 京都福知山テクノロジーセンター



2015 HORIBA最先端技術センター



2016 びわこ工場



2018 阿蘇工場



2020 サービス拠点 &  
Analytical Solution Plaza



2025 福知山テクノロジーセンター



2026 福知山工場

## HORIBAグループ 「グローバル新本社」 を建設

1. 新本社への企画・戦略・管理・営業などの機能集結
2. 生産・開発拠点のリソース再編による効率化と各拠点機能の再整備
3. 各拠点での強みを進化させるためのビジネスオペレーションの構築

- 総投資額 約370億円（予定）  
※新本社棟の建築に加え、既存施設の解体費用および一部建物の改修費用などを含む

# HORIBA World Headquarters Project

## 新本社がめざす機能

1. グローバルオペレーションを次のステージへ
2. 国内拠点の最適化・効率アップ
3. HORIBAのすべてを魅せる展示スペース
4. 多様な人財のコラボレーション
5. HORIBA流サステナビリティの実践と発信



京都・吉祥院本社敷地に建設（完成予想図）

- 2028年1月竣工予定
- 構造・規模：地下1階・地上10階建て

- ✓ 世界各地の最先端の情報を持つホリバリアンが集結
- ✓ グローバルな人財交流を通じ、HORIBAの戦略策定・実行スピードを加速

# 人財・サステナビリティの取り組み

## グローバル人財育成の推進

- **グローバルリーダーを育成するプログラムをスタート**  
→ 世界中のHORIBA独自の強みを結び付け、  
社会や市場の期待に応える戦略実行を実現



グローバルリーダーシップ  
プログラムの風景

- **国際間の人財交流・異動を通じたグローバルでの  
多様なキャリア開発プログラムの推進**

	2024	2025
受入	16名	13名
研修	23名	18名
出向	127名	141名
<b>合計</b>	<b>166名</b>	<b>172名</b>

国際間交流（海外派遣・受入）実績

- ✓ 国際間交流の総人数は  
前期比4%増加し  
過去最大
- ✓ 多様な人財が活用しや  
すい短期で柔軟な国際  
間異動などのキャリア  
開発を推進

## CO<sub>2</sub>削減に向けた取り組み

### GHG削減目標

2033年：42%以上削減（2023年比）

2050年：カーボンニュートラル

Scope 1, 2, 3：グローバル集計・開示が完了

（単位：t-CO<sub>2</sub>e）

	2023	2024
Scope 1, 2 (グローバル)	57,742	59,225
Scope 3 (国内)	836,346	※825,487
Scope 3 (グローバル)	-	2,141,171

- 2026年の重点取り組み：
- ✓ SBTi認定取得
  - ✓ 水資源削減目標設定
  - ✓ マテリアリティの開示

※Scope 3の国内数値は、Scope 3グローバル数値の内数です

# 説明内容

---

- 2025年12月期 決算概要
- 2026年12月期 業績予想
- MLMAP2028進捗状況
- 事業成長に向けた対応
- トピックス
- 株主還元

# 株主還元

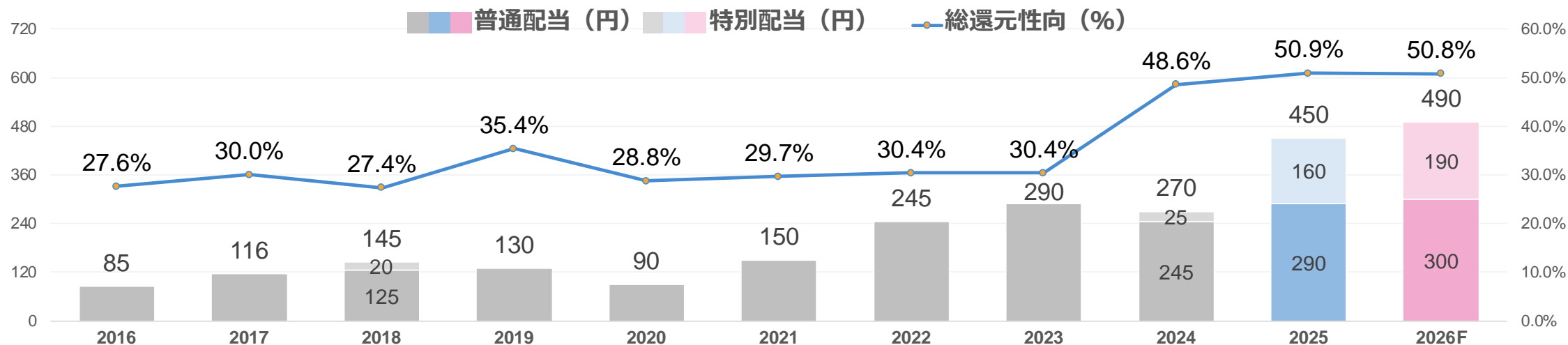
## 基本的な考え方

- 配当金 = 連結純利益×30%を目途
- 投資機会と資金状況等を総合的に勘案し、特別配当や自己株式の取得を機動的に実施

## 配当金

- 2024年実績 270円【中間 80円、期末 190円】 ※特別配当25円を含む
- 2025年予想 290円【中間 80円、期末 210円】
- 2025年実績 450円【中間 80円、期末 370円】 ※特別配当160円を含む
- 2026年予想 490円【中間 150円、期末 340円】 ※特別配当190円を含む

## 総還元性向推移





# 2025年12月期 決算説明会 ～決算詳細説明～

小山 浩史

株式会社 堀場製作所

シニアコーポレートオフィサー グループCFO 財務法務本部長

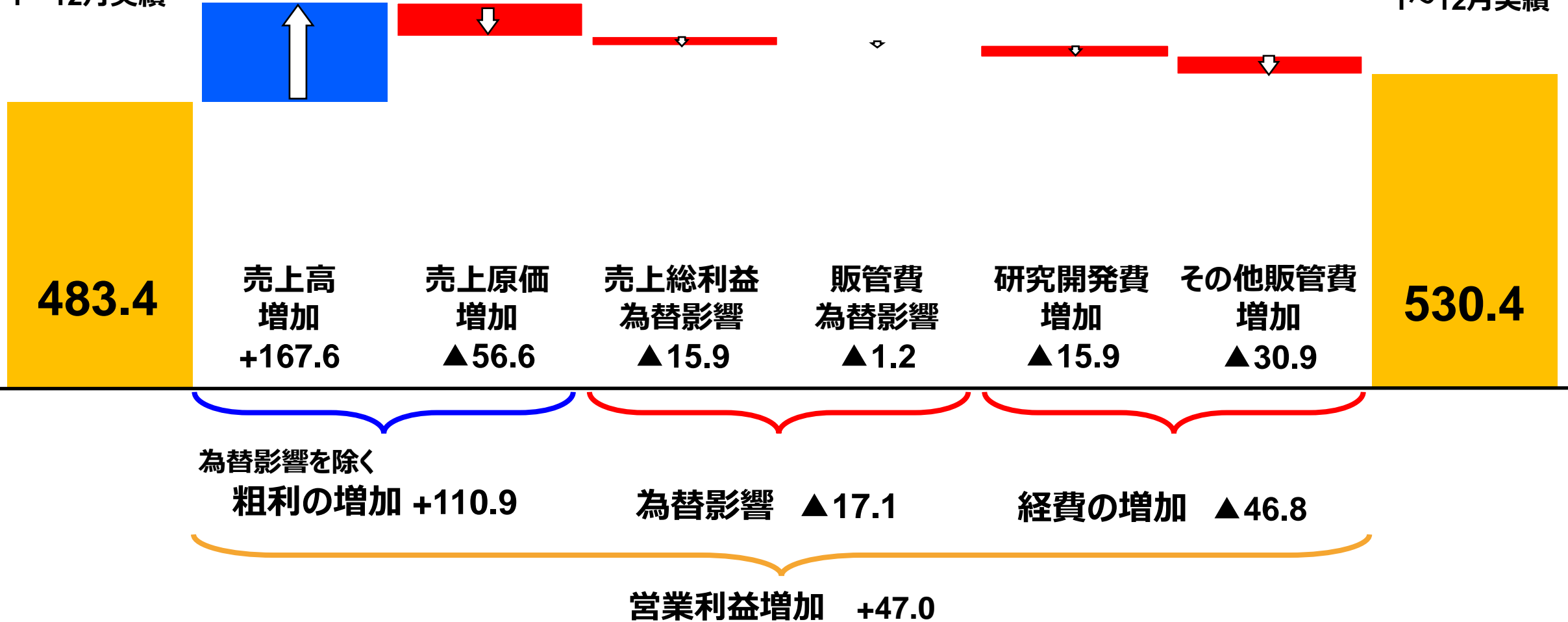
2026年2月13日

# 営業利益分析

(単位：億円)

2024年  
1~12月実績

2025年  
1~12月実績

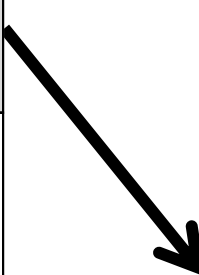
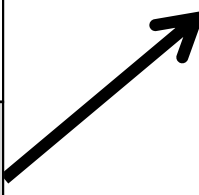


# 営業外損益

(単位：億円)

	2025年
売上高	3,330.8
営業利益	530.4
経常利益	542.2
親会社株主に帰属する 当期純利益	370.9

	2025年	2024年
営業利益	530.4	483.4
金融収支	17.5	18.5
為替差損益	▲ 9.9	▲ 6.5
助成金収入	3.0	4.6
その他	1.0	1.6
営業外収支戻	11.8	18.3
経常利益	542.2	501.7

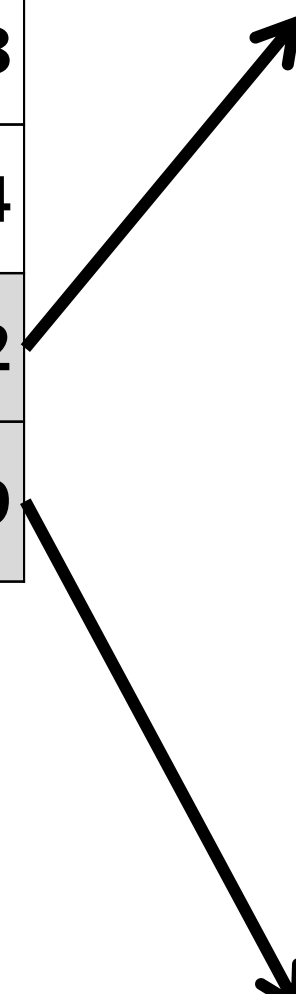


# 特別損益・法人税等

(単位：億円)

	2025年
売上高	3,330.8
営業利益	530.4
経常利益	542.2
親会社株主に帰属する 当期純利益	370.9

	2025年	2024年
経常利益	542.2	501.7
固定資産売却益	0.7	0.2
固定資産除却損	▲ 2.2	▲ 0.5
減損損失	▲ 9.9	▲ 13.0
事業構造改善費用	▲ 13.4	-
環境対策費	▲ 5.9	-
のれん償却額	▲ 0.5	-
その他	▲ 0.0	▲ 0.0
特別損益戻	▲ 31.4	▲ 13.3
税金等調整前当期純利益	510.8	488.3
法人税等	▲ 139.9	▲ 152.4
親会社株主に帰属する 当期純利益	370.9	335.9



# 2025年12月期 連結実績 (B/S、CF)

## B/S

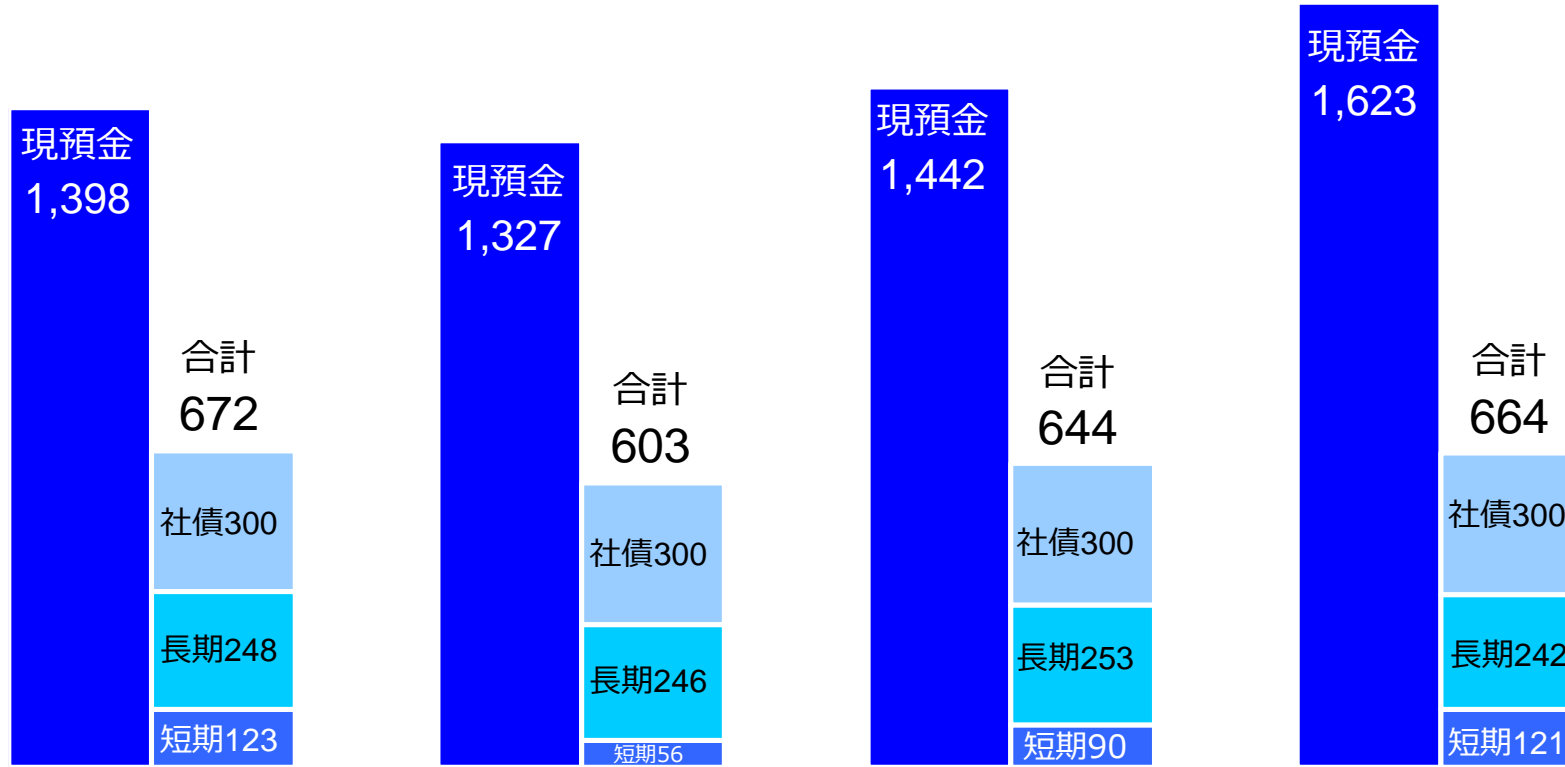
- ◆総資産は、福知山の開発拠点新棟と新工場投資の進捗に伴い、有形固定資産が増加し、前期末比366億円増の5,182億円
- ◆自己資本比率は67.1%

## CF

- ◆利益計上などにより、営業CF： +543億円
  - ◆設備投資などにより、投資CF： ▲249億円
  - ◆配当金の支払などにより、財務CF： ▲119億円
- フリーCF： +294億円

# 資金の状況

(連結ベース、各期末)  
(単位：億円)



**社債**  
① 150億円  
(2026年10月償還)  
② 150億円  
(2029年償還)

内、200億円  
(2030年償還)

流動比率	264%	315%	336%	299%
自己資本比率	58%	63%	65%	67%

・直近の格付け：R&I 「A」 (2025年8月)、JCR 「A+」 (2025年8月)

# 連結キャッシュフロー

(単位：億円)

	2025年 通期	2024年 通期	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	+543	+403	+140
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲249	▲175	▲73
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲119	▲159	+39
現金及び現金同等物期末残高	1,624	1,439	+185
フリー・キャッシュ・フロー	+294	+227	+66

# 設備投資額・減価償却費・研究開発費

(単位：億円)

	2024年	2025年			2026年		
	実績	前回予想 (11/14)	実績	対 前年	対 前回予想	予想	対 前年
設備投資額	193	200	274	+80	+74	200	▲ 74
減価償却費※	130	140	138	+7	▲ 1	155	+16
研究開発費	229	260	246	+17	▲ 13	275	+28
(対売上高比)	7.2%	7.8%	7.4%	+0.2p	▲0.3p	8.0%	+0.6p

※のれん償却費含む

## トピックス

- 2025年：京都福知山テクノロジーセンター新棟  
京都福知山新工場、グローバル新本社、など
- 2026年：京都福知山新工場稼働開始
- 2028年：グローバル新本社完成予定

# 為替推移／想定レート／影響額

	2024年	2025年	2026年	
	通期	通期	通期予想	対前年(通期)
USドル	151.69	149.61	145.00	▲4.61
ユーロ	164.05	169.19	175.00	+5.81

## 2025年 為替影響額 (前期比)

(単位：億円)

売上高の減少	▲ 10.4
売上原価の増加 (逆符号)	▲ 5.4
売上総利益の減少	▲ 15.9
販売費及び一般管理費の増加 (逆符号)	▲ 1.2
営業利益への影響	▲ 17.1

## 為替感応度 (2026年通期予想) 1円円安による売上高/営業利益の影響額

(単位：億円)

	売上高	営業利益
USドル	+ 7.6	+ 3.7
ユーロ	+ 3.5	+ 0.0

Omoshiro-okashiku  
Joy and Fun



Terima kasih  
谢谢  
Gracias  
Danke  
Tack ska du ha  
Grazie  
Danke  
Σας ευχαριστώ πάρα πολύ  
धन्यवाद  
شُكْرًا  
THANK YOU  
ขอบคุณครับ  
Большое спасибо  
Obbrigado  
ありがとうございました  
Dziękuję  
Cảm ơn  
Merci  
감사합니다

# HORIBA